非科學的教育の提唱

鈴見 健夫
学校法人芝浦工業大学理事長

昨年2月、学校法人芝浦工業大学の理事長を拝命した。芝浦工業大学の卒業生として企業経営の傍ら校友会会長をはじめ大学事業法人代表、学校法人理事として、卒業後、様々な立場で母校と関わりを持ってきた中で想うことを述べさせていただきたい。

1927年に有元史郎によって創立された本学の建学の精神は『社会に学び社会に貢献する技術者の育成』とされている。その有元による『非科學的教育の提唱』と題した論文に、有元は昭和初期の学校教育に対し、『社会と絶縁する傾向を似っている』と指摘している。専門性の深掘りに特化して、社会と学問を関連づける全人的な視点を失う傾向に警鐘を鳴らし、このような『現代教育の根本的欠陥を救済』するために『非科學的教育』を提唱したのであった。

有元の言う『非科學的教育』とは『科學を排斥するものでも教育の科學的研究を否認するものでもなく、學問的体系によらざる教育、科學的観点の下に教材蒐集（しゅうしゅう）することなき教育を意味するもの』であり、『我等の生活の中に科學の解け込んだ現代文化の諸相を教材とし、社会の一員たる個人に社会的活動の意義を体得せしめる教育』とし当時

非科學的教育の提唱

有元史郎

昭和六年十二月

有元史郎の論文「非科學的教育の提唱」

ずいそう Occasional thoughts

から実学教育に重点を置いていることは特出されるものである。

この『非科學的教育』の概念は、時代が進んだ1949年、新制大学として設置された本学の設置要綱の冒頭、「一 目的及び使命」において『識見豊かな技術者を養成するを以て目的とし、学び乍ら応用研鑽する事により優秀な指導者を育成し、文化日本建設の為めに貢献するを以て其の使命とする。』と明記されている。新制大学として同時期に発足した工科系単科大学で、技術者の育成を大学の目的として設置要綱および学則に明記した大学は他に存在しておらず、この実学重視の技術者育成の理念は創立時から現在に至るまで脈々と伝えられ、本学の真髄となっている。

その後90余年の歳月を経て我が国の大学の国際化・国際競争力向上の新たな流れの中、2014年に文部科学省のスーパーグローバル大学(SGU)創成支援事業に採択されたことを契機に、建学の精神を現代風に置き換え『世界に学び世界に貢献するグローバル理工学人材の育成』を大学のミッションに据え、卒業後は強靭な精神、そして即戦力となるグローバルリーダーの育成に注力している。

このような実学教育やグローバル人材教育を進めていくことにより、本学は就職に強い大学と評価されている。これは単に高い就職率を維持するだけではなく、有名企業への高い就職率や企業と学生のマッチング等において、一定の成果を出しているからである。校友会ならびに大学の努力により近年、有名企業400社への就職率ランキングが注目される中、本学も比較的高いポジションを維持している。100周年を迎える2027年には目標のトップ5入りを達成するべく全学を挙げて『就職に強い芝浦』の堅持に努める所存である。

本学は創立当初から勉学のみならずスポーツにも力を入れていた。1960年代か

ら1970年代には『スポーツの芝浦』と言われるほどの実績を残している。特に野球（東都大学一部リーグ3回優勝）、スキー（インカレ優勝）、ハンドボール部（全日本総合選手権優勝）の活躍には注目が集まり、プロ野球選手やオリンピック代表選手を輩出する等、文武両道の学生が社会に巣立っていった。1972年の札幌冬季オリンピックでは本学から4名の代表選手を輩出している。当時、大学を卒業したばかりの私もTV

初優勝
苦闘十一年目の勝利
三タイトル独占
三たび王座に
秘めたる気苦労

「芝浦工大新聞」（1961年12月1日付）

を通じて熱い応援をしたのをつい昨日のように覚えている。「スポーツを通じて大学が一つになる」この想いが時代を超えて、2018年には国民的行事である箱根駅伝を通じ、本学の知名度およびブランド力を向上させ、文武両道の逞しい理工学人材を育成することを目的に『駅伝プロジェクト支援制度』を新設した。現在、選手層の拡大に尽力しており創立100周年までには箱根駅伝本戦出場を目指している。2021年現在、早くも2名が学連選抜入りすることが叶い、部員たちに本選出場で得た経験を伝えている。そう遠くない未来にチームとして箱根路を走ることになるかもしれない。

さて、私が本法人理事に就いた数年前に実感したことがある。大学経営の中心的役割を担うのは教員ではなく紛れもなく事務職員である。職員が主体的に大学の中長期経営方針をプランニングし、そのプランに基づき大学教員が教育・研究を行うという仕

ずいそう Occasional thoughts

組みが大学を強くすると考えている。事務職員こそ私学経営の重要な役割を果たすメインプレーヤーである。つまり、健全な大学経営を実現し盤石な財政基盤を確立することは、事務職員の努力にかかっているということである。

昨今、世界に蔓延するコロナクライシスに対する大学の対応についても事務職員が教員、学生と一丸となってオンライン授業、ブレンディッド学修、ハイブリッド教室に関する様々な取組を推進し成果を上げているところである。

創立時から一貫して掲げてきた『非科學的教育』、すなわち実学教育を推進していくためには、より一層の教職協働、教職学協働が不可欠と考えている。そのために私の最大の目標は、職員のモチベーションを上げ、働き甲斐を感じられる職種に変えていくことである。本学で働く教職員が一層の帰属意識を持ち、本学で働いてよかったと言ってもらえるような環境作りをすることが私の使命だと考えている。これからも教職員の期待に応えていくことが、本学の一層のブランド力及び学生満足度の向上に繋がると確信している。

芝浦工業大学　スポーツの功績

野球：東都大学１部リーグ
- 1961（昭和36）年秋 － 初優勝
- 1962（昭和37）年春 － 2位
- 1963（昭和38）年春 － 2位
- 1968（昭和43）年春 － 2位
- 1968（昭和43）年秋 － 優勝
- 1970（昭和45）年春 － 優勝

ハンドボール
- 1956（昭和31）年度 － 王座決定戦初優勝
- 1957（昭和32）年度 － 王座決定戦二連勝
- 1959（昭和34）年度 － 4大タイトル制覇　全日本総合選手権優勝
- 1961（昭和36）年度 － 47連勝達成

スキー
- 1961（昭和36）年～1976（昭和51）年オリンピック冬季大会日本代表
- アルペン種目：野戸恒男、柏木正義、古川年正、鈴木謙二
- ノルディック：田中英一、佐々木信孝
- 1961（昭和36）年1月　全日本学生スキー選手権（2部）総合優勝
- 1969（昭和44）年1月　全日本学生スキー選手権（1部）総合優勝